

# 国際化に対応した商業教育

## —「ビジネス英語」の実践報告—

商業科 手塚雅之 山田将与

### 1. はじめに

商業の科目は現行の学習指導要領では21科目で構成されている。従前の「高等学校学習指導要領解説商業編」においては、商業に関する科目18科目を、商業経済科目群、簿記会計科目群、事務科目群及び情報処理科目群の4科目群に分類していたが、「課題研究」、「国際経済」の新設に伴って、商業経済科目群を流通経済に関する分野と国際経済に関する分野に分けた。現行の学習指導要領では、サービス経済化、国際化、情報化に代表される産業経済の変化は、産業構造、就業構造、消費構造の面に著しい変化を及ぼし、その対応に留意して改善されたものがある。その中で、特に国際化の進展は商業の各分野にわたって関連し、また、正しい国際理解に基づいた経済や流通の国際化に広く理解を図る必要がある。<sup>1)</sup>

### 2. 研究の目的

現在の「高等学校学習指導要領解説商業編」において、どのような科目に国際化に対応した内容が含まれるか見てもらいたい。「英語実務」をはじめ、「流通経済」、「商品」、「マーケティング」、「商業経済」、「経営」、「商業法規」、「国際経済」、「文書処理」以上の科目において国際化について扱っている。やはり、国際化と言うだけあり多くの科目で国際化について扱っている。その中で、「英語実務」は商業科目でありながら非常に「外国語」に近い商業科目の唯一の科目である。そこで、本校商業科における「英語実務(ビジネス英語)」の指導方法、実践を報告していきたい。<sup>2)</sup>

新旧科目対応表

順序	改訂	改訂前	備考	順序	改訂	改訂前	備考
1	流通経済	商業経済Ⅰ	名称変更	12	商業法規	商業法規	
2	簿記	簿記会計Ⅰ 簿記会計Ⅱ	統合	13	英語実務	貿易英語	名称変更
3	情報処理	情報処理Ⅰ	名称変更	14	国際経済		新設
4	計算事務	計算事務		15	工業簿記	工業簿記	
5	総合実践	総合実践		16	会計	簿記会計Ⅱ	分離
6	課題研究		新設	17	税務会計	税務会計	
7	商品	商品		18	文書処理	文書事務 タイプライティング	統合
8	マーケティング	マーケティング		19	プログラミング	情報処理Ⅱ	分離
9	商業デザイン	商業デザイン		20	情報管理	情報処理Ⅱ	分離
10	商業経済	商業経済Ⅱ	分離	21	経営情報	経営数学	名称変更
11	経営	商業経済Ⅱ	分離	1)	図 2	教科の 組織	科目 群

1)

## 教科の組織

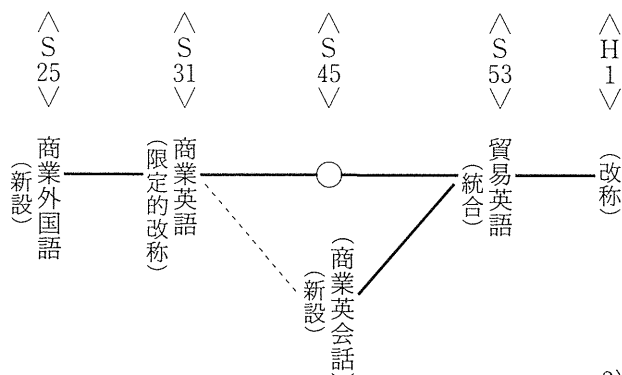
科目群	分野及び学科		該当科目
	商業に関する各分野(商業科)	流通経済分野 (流通経済科)	流通経済、計算事務、商品、マーケティング、商業デザイン、商業経済、経営、商業法規
		国際経済分野 (国際経済科)	英語実務、国際経済
簿記会計科目群		簿記会計分野 (会計科)	簿記、工業簿記、会計、税務会計
情報処理科目群		情報処理分野 秋情報処理科)	情報処理、文書処理、プログラミング、情報管理、経営情報
総合学習科目群			総合実践、課題研究

1)

### 3. 「英語実務」の内容

#### (1) 科目の歴史

昭和23年に始まる新制商業高校、厳密に言えば戦後の教育教育改革に基づく高等学校での商業教育にさかのぼり昭和23年にはまだ「英語」は独立した地位を与えられず、専門教育の一部にとどまっていた。昭和25年のわが国初めての高等学校学習指導要領の商業科編が試案の形で発表され、「英語」を含む外国語が独立の教科に戻り、商業教育として「商業外国語」が残ったのが始まりである。当初の「商業外国語」の時代は、英語のみならず中国語なども含み、しかも読み・書き・聞き・話す4領域がおさえられていた。その後、内容が英語に限定され、会話の領域が切れたり、それが別科目となって新設されたり、再び吸収されたりという経緯をたどりながら現在に至っている。



#### (2) 科目の内容

従前の「貿易英語」は、貿易取引に必要な英文の文書を読解し、作成する能力や応接及び商品販売に必要な英会話の基礎的能力を養うことを目標にしていたが、経済を中心とした国際化が進む中で、正しい国際理解を深める能力と態度を養う学習を一層充実する必要が生じてきた。そこで、「英語実務」は、「貿易英語」の指導内容を発展させ、英語を通して商業に関する実務に対応する能力や、英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、豊かな国際性を養うことを目標としている。

#### 英語実務

2)

指導要領第13	1 目 標	英語を通して商業に関する実務を行うための知識と技術を習得させ、国際理解を深めるとともに、英語を経営活動に役立てる能力と態度を育てる。
	2 内 容	(1) 外国人とのコミュニケーション (2) ビジネスの会話 (3) ビジネスの文書 (4) 国際経済情報 (5) 英語実務実習

### 4. 本校における「英語実務」の状況

#### (1) 選択者数について

2) 平成7年度より総合科学科の選択科目として開設して

いる。下記の資料を見てもらうと分かるが年々選択者が増加しているのが分かる。平成9年度より40名を超える選択希望者がいて商業科教員（専任1名・講師1名）の2名体制で授業を展開している。平成10年度の希望調査の段階では平成9年度を上回る選択者がいるため商業科教員（専任1名・講師2名）で対応していく予定である。

選択者数と教員数

年 度	7年	8年	9年	10年
生徒数	24名	33名	46名	49名
教員数	1名	1名	2名	3名

## (2) 科目について

平成7年度、8年度については一橋出版「英語実務」を使用し講義中心に授業を展開してきた。平成9年度より選択者人数が40名を超えることもありさらには2名体制になることもあり大幅に内容について改善を加えることにした。商業教育において「英語実務」は「流通経済」や「簿記」と同じように商業に関する科目である。講義による「英語実務」で良いのであろうかという疑問が浮かんだからである。選択をした生徒の方は商業の科目であるということを知っている生徒がほとんどであった。商業における「英語実務」の目標は、「話すこと」、「書くこと」、「読むこと、聴くこと」など広い範囲にわたって英語を経営活動に役立てる能力と態度を育成することをねらいとされているのである。そこで、従来の講義中心の「英語実務」の内容を改め、商業に関する広い知識と能力を育成するため実習中心の「英語実務」に改善することに平成9年度より実施している。

## (3) 科目の指導内容

本校では、選択科目はすべて2時間連続で授業を行っている。そこで、平成9年度選択者46名を二つのグループに分けて授業を行っている。1時限目は、全員で「英会話ソフトを使用してのビジネス英会話演習」、2時限目は、「ビジネスに関する知識（教科書使用）」と「視聴覚教材を使用したビジネス英会話演習」の二つの内容とした。2時限目は二つのグループが1週交代で二つの内容を学習するようにした。

## (4) 英会話ソフトを使用しての ビジネス英会話演習

市販用のソフトを使用して1時限は二つのグループ合

同で授業を展開している。商業に関するソフトということと海外旅行に必要な基本的な表現がカバーできている物を選択し使用している。

授業の展開方法としては、選択者46名の生徒を3時間一展開として4人のグループを作り、そのグループは3週間にわたり一緒に協力をするメンバーとなる。一単元を3時間使うことにより終了する計画を立てた。

### ① 1週目の授業展開

- ・4人のグループに分かれて着席をし、英会話ソフトを使用して本文を聞く。(本文をゆっくり目で2回流す。)
- ・本文の内容に関しての質問を5問程度行う。

(本文を2回ほど質問に関する箇所を止めながら流す。)

- ・本文に関する質問の解答及び解説
- ・グループ内における役割分担
- ・次回の説明

### 1週目に使用するプリントの例

#### 「レストランで夕食」

教 員 用

何時よりショーは始まりますか。

1. ( )

今日の料理のお勧めは何でしょうか。

2. ( )

料理には何がついてきますか。

3. ( )

サラダにはケンジは、何のドレッシングを注文しましたか。

4. ( )

サラダにはマコは、何のドレッシングを注文しましたか。

5. ( )

食事の前に何の飲み物を注文しましたか。

6. ( )

食事の後に何の飲み物を注文しましたか。

7. ( )

### ② 2週目の授業展開

- ・前回の復習及び解説（本文を1回流す。)
- ・穴埋めのプリント配付（本文を2回流し穴埋めのプリントを完成させる。)
- ・穴埋めプリントの解答及び解説
- ・商業に必要な知識の解説
- ・グループに発表（本文を見ながら）



見が大多数を占めていた。進捗についてもこのくらいの進捗で適当であることが理解できる。「視聴覚教材を使用したビジネス英会話演習」については内容が難しいという意見もあり、今後、改善していかなければならない点だと考えられる。本年度の意見を参考に来年度以降、工夫を入れていきたいと考えている。生徒の方もなぜこの科目を選択したかという問いに対してはほとんどの生徒が将来必要になるかもしれないと記入していた。

(1) 「英会話ソフトを使用したビジネス英会話演習」について

ア. 【内容について】

難しい	21%
適当である	66%
易しい	13%

イ. 【授業の進捗について】

早い	13%
適当である	74%
遅い	13%

(2) 「ビジネスに関する知識」について  
(教科書使用)

ア. 【内容について】

難しい	32%
適当である	61%
易しい	7%

イ. 【授業の進捗について】

早い	5%
適当である	87%
遅い	8%

(3) 「視聴覚教材を使用したビジネス英会話演習」について

ア. 【内容について】

難しい	47%
適当である	47%
易しい	6%

イ. 【授業の進捗について】

早い	21%
適当である	71%
遅い	8%

6. おわりに

本年度より、「英語実務（ビジネス英語）」の内容を大幅に改善し、授業を展開してみたが当初考えていたほど大変ではなかった。この授業の改善には商業科専任の先生方や担当者 山田将与先生の協力もあり実行できたと考えています。また、文部省主催 産業教育新技術等講習会の「英語実務」の指導に関する講義と実習の参加も大きな参考となった。講習会には全国より20名の商業科の先生方が参加され、5日間「英語実務」について実習を中心に行った。講習会に参加される先生方は勤務校で「英語実務」の授業を担当され同じような考えをもたれた先生方で講習を終え各学校で実践を行われると思います。講習会に参加をし今までの「英語実務」では改善を必要とすると思い今回の実践を行いました。今後、選択者の問題も出てくると考えられる。本年度は、選択者46名で2グループに分けることに展開できたが、来年度以降、選択者が増加すると複数時間開講せざる得なくなると思われる。教科においても検討していかなければならない課題とも言える。最後に本校の「英語実務（ビジネス英語）」の授業が万全であるとは思いません。まだ、改善する点は多々あるともいます。これから国際化が進んでいく中で必ず必要となってくる知識だと思っております。改善を加えながらよりよい教科指導を考えていかなければならないと思います。

【引用文献】

- 1) 文部省 高等学校学習指導要領 商業編
- 2) 雲英道夫 平成5年 商業科教育法 多賀出版
- 3) 河合昭三 他編著 平成3年 新商業教育論 多賀出版

【参考文献】

- 1) 米倉マサエ 他編著 平成7年 英語実務 一橋出版
- 2) 倫子・ヴァーダマン 平成8年 そのまま使えるトラベル英会話 創育